

鹿児島市路面電車観光路線検討連絡会議について

鹿児島市公共交通ビジョン（平成 22 年 3 月策定）の推進施策である都市景観・観光資源の面からの路面電車の有効活用を進めるため、市民や観光客の 2 次アクセスの充実を考慮し、かごしま水族館や桜島フェリーターミナル、高速船旅客ターミナル等があるウォーターフロント地区への路面電車観光路線新設に向けた調査検討を行う。

調査検討にあたっては、「①観光利便性」や「②導入空間」、「③交通処理」、「④事業化の検証」の観点から行うこととし、23 年度は「①観光利便性」及び「②導入空間」の観点から実現可能な新設路線 5 ルートを選定した。

24 年度は路面電車観光路線検討連絡会議を設置し「③交通処理」及び「④事業化の検証」の観点から検討し、土地利用や整備空間（官民有地使用、道路空間再配分等）の検討、概算事業費、需用予測等について調査を行うとともに、都市景観に資する架線レス車両[※]の導入検討を行い観光路線に適するルート案を 2～3 案程度に絞り込む。

また、路線新設に向けた各種課題の整理について協議を行う。

新設ルートの検討項目

23 年度

- ① 観光利便性
 - ・鹿児島中央駅からウォーターフロント地区への速達性（所要時間）
 - ・ウォーターフロント地区から市内中心部（天文館）等への回遊性
 - ・電停から主要施設へのアクセス性（主要施設までの距離）
- ② 導入空間
 - ・道路車線構成 ・交差点部の線形
 - ・重要構造物への影響 等
 - ・ウォーターフロント地区は電線共同溝の整備が概ね完了していることから、都市景観を考慮し、架線レス車両[※]（バッテリートラム）になることも想定し検討する。

24 年度

- ③ 交通処理
 - ・官民有地使用の可能性 ・道路空間の再配分
 - ・土地利用の整理 等
- ④ 事業化の検証
 - ・概算事業費及び需要予測 ・運行形態 等

※新設ルート選定までのスケジュール

- 平成 24 年度 検討連絡会議の設置(国、県、市、公安委員会等)
観光路線検討調査
 - ・ルートの検討・選定（2～3 案程度）
 - ・架線レス車両（バッテリートラム）の導入検討 ほか
- 平成 25 年度 基本計画策定委員会の設置(学識経験者、国、県、市、公安委員会、公募市民等)
 - ・ルートの決定
 - ・基本計画策定
- 平成 26 年度～ 都市計画決定、港湾計画の変更
軌道特許の取得など事業実施に係る法的手続き など

1 路面電車観光路線検討連絡会議

(1) 所掌事項：観光路線の選定に向けた調査検討を行うほか、観光路線新設に向けた課題について協議する。

(2) 開催時期：年 4 回

- 第 1 回（6 月）：観光路線検討事業の概要説明
- 第 2 回（7 月）：交通処理の面からの路線の整理
- 第 3 回（10 月）：概算事業費、需要予測の面からの路線の整理
- 第 4 回（2 月）：路線検討（2～3 案程度）

(3) 委員構成

- ① 国土交通省：道路管理、公共交通
- ② 鹿児島県：道路管理、都市計画、港湾計画、港湾施設管理、公共交通、公安委員会
- ③ 鹿児島市：道路管理、都市計画、観光、船舶、軌道、公共交通
- ④ 関係施設：かごしま水族館、ドルフィンポート

※ 架線レス車両（バッテリートラム）

電化区間（既存線区間）はパンタグラフからの給電で走行し、非電化区間では車両に積載したバッテリーで走行する車両のこと。

非電化区間では、架線柱や架線が不要となることから、事業費が抑えられるほか、都市景観の向上が期待される。

日本国内での導入実績はなく、国内メーカーが現在開発中。

海外の導入例としてニース（仏）、パドバア（伊）があるが導入区間は 500m 前後となっている。



架線レス車両（バッテリートラム）：ニース（仏）